

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】 【各教科】		b 自主的な学習態度の育成 【学習】 【各学年】	
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと学力各層への指導の充実		2 自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保	
③現状	・学力の多層化が顕著である。 ・観点別評価実施に向けて、これまで様々な組織で検討・準備をしてきたが、実施に伴い問題点等が発生する可能性もあり、速やかに対応する必要がある。		・多くの生徒が前向きに学習に取り組み、予習や復習など最低限の学習を確保できている。 ・一方、自らの力を伸ばすために目標を定め、いつまでにどんなことをやっていけばいいかを考えながら、自分の学びをプロデュースする力は不足しており、学習時間や教科バランスなど、検討が必要な生徒も少なからずいる。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①各学力層に対応するため、講座(土曜講座・平日講座等)を計画的に行う。特に上位層への指導を充実させる。【考】	B	①それぞれの状況に応じて日々の学習ルーティーンを確立させ、平日「学年＋2」時間、休日「学年＋5」時間の学習時間を確保する。【基】	B
	②観点別評価実施に伴い、拡大学習連絡会・教科会等で問題点を検討・改善するなど、組織的に対応する。【発】	A	②定期考査や模試等を通じて自己を分析し、主体的に学習に取り組む姿勢を養う。【協】	B
	③生徒の知的好奇心を刺激するような授業を目指す。特に、ICT環境を積極的に活用し、教員の個人スキルの向上を図る。【情】	A	③自主的に、長期休業中の学習計画を立て、実行し、振り返ることができるよう導く。【自】	B
⑤具体的な取り組み	①土曜希望講座、平日講座を超上位、上位、中位など対象とする層を意識しながら実施する。また、担任からの声かけ等で生徒が積極的に参加する態度を養う。 ①特に配慮が必要な生徒には情報を学年・教科で共有し、教科担任面談等の個別指導で、早期から丁寧に対応する。 ②観点別評価実施に伴う問題点を学習連絡会・教科会等で共有し、速やかに組織で対応する。 ③職員室や準備室で常に話し合いを行い、生徒の知的好奇心を刺激し、自ら学びたいと思えるような教科指導を行う。 ③ICTを効果的に活用できた事例を教科会や学習連絡会等で共有することにより、教員のスキルアップを図る。		①生徒との面談を通じて学習習慣の確認を行い、取り組むべき課題を明確にし、適切な助言・指導を行う。 ①学年会で各教科の生徒の学習状況、授業の様子などを共有し、HR等で時期に応じて発信していく。 ②実力テスト等の分析を充実させ、学年全体の課題を発見し、授業や面談にて適切な指導ができるようにする。 ②定期的に学年集会を開いたり文書を出したりして、内発的動機付けを図り、生徒の学習に向かう意欲を高める ③長期休業中には学習計画の例を示し、自分で計画を立てることができるよう支援する。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、()は 5 わから ないの割合を表す < >…昨年度データ	①学力各層に応じた指導は行われているが、栃高評価②(土曜講座)生徒 76(5)<88(5)>となり、さらに工夫が必要である。 ①担任や教科別の面談等においては、早期から時間をかけて実施しており、個別指導は充実している。 ②観点別評価実施に伴い拡大学習連絡会等で組織的に対応した。 ③活発な話し合いが行われ、研究授業等で実践されている。 ③個人差はあるが電子黒板が頻繁に利用され、職員の ICT スキルもアップしている。授業公開は好評であった。授業研究会も有意義であった。		①栃高評価①(面談による学習アドバイス)では、生徒 92(2)<95(1)>保護者 93(3)<91(5)>で適切に助言・指導を行っている。 ①昨年度末の3年生への調査では、ほとんどの生徒が最終的には目標に到達することが判明した。早期到達への支援が必要である。 ②栃高評価⑦(自ら学ぶ取り組みへの適切な支援)では、生徒 87(3)<92(2)>保護者 89(6)<89(6)>で適切に支援している。 ②前期終了時の学年集会等を効果的に開催することができた。 ③栃高評価③(長期休業期間の学習アドバイス)では、生徒 86(2)<91(2)>保護者 84(9)<84(9)>で適切に支援している。	
⑦学校関係者 評価	・土曜講座で学力各層に分けた対応や、個別対応に力を注いでいる点は評価できる。 ・一方で土曜講座に対する評価が、生徒、保護者ともに低く、周知含めさらなる工夫を要する。		・学習時間の確保と、学習内容(質)の向上のため生徒が自ら学習に向かう姿勢の確立を目指してほしい。 ・学力中位以下の生徒の学習時間に対する意識改革によりボトムアップが望めるのではないかな。	
⑧次年度への 課題	・習熟度に合わせて内容をさらに検討し、学力の向上を目指す。 ・観点別評価に関して PDCA サイクルを適切に実施するとともに問題点を改善する。(特に2年数学における文理混合クラスの評価) ・ICTの授業への活用についての研修等を行い、継続的に教員のスキルアップを図る。		・時機をとらえて個別面談を実施する。生徒個々に応じた学習アドバイス充実させるとともに、生徒自身が自身の学習を振り返り、主体的に考えて学習時間が増えていくような指導を実現する。	

① 重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		【進路】 【各教科】 【各学年】	
② 重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承		4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
③ 現状	- 全体計画を進路指導部で作成し、進路講演会や学問探究講義、卒業生との懇談会等を実施し、キャリア教育を推進するとともに、内発的動機、学習意欲の向上を目指している。 - 生徒への個別対応が重要性を増しており、時宜を得た効果的な生徒個人面談を実施するために、三年間を見通した面談の内容について共通理解を図る必要がある。		- 校内模試データによる校内ランキングの見直しや、進路指導委員会に向けての事前検討会を充実させることにより、進路指導部と担任間、および担任と生徒間の進路に関する具体的な情報のやりとりをさらに充実させる必要がある。 - 進路学習室や大掲示板の環境整備や、進路委員の活動を通して、1、2年生に対する情報提供もさらに充実させる必要がある。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①土曜講座の実施形態の工夫、内容の充実とともに、保護者への内容の周知を図る。 展	B	①校内模試による校内ランキングの見直し、各種研究会等の適切な情報提供を通して、進路指導委員会を充実させる。 考	A
	②時機に応じた生徒個人面談の内容充実により、LHR 以外の場面でも進路意識・学習意欲の向上を図る。 協	B	②個別大学についての分析や追跡調査、分析報告会の情報を共有しそれをもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。 課	B
	③三年間を見通した進路指導のノウハウ継承を図り、特に上位層への低学年からの働きかけを強化する。 目	B	③「高大接続改革」に関して、新入試改革への対策、その効果的取組が学校全体で着実に進められるよう努める。 情	B
⑤具体的な取り組み	①生徒の学力向上のために、土曜講座の実施形態(全員講座と希望講座、層別指導の組み合わせ等)を工夫し、実態とニーズに合わせて計画・実施し、充実したものにするとともに、その内容について外部へも発信していく。 ②これまでの蓄積(各学年の LHR 資料、学年独自の進路関係行事の実施記録、長期休業前指導の資料、各資料や行事の意義を明文化した資料等)を活用し、LHR 以外にも積極的に進路学習の機会を設定できるようにする。 ②多くの教員との面談を通して自己理解を深めるとともに、キャリア教育の各種取組により進路意識を高揚させ、学習意欲の向上につなげていく。 ③三年間を見通した進路指導計画を教員と生徒が共有する場を多く設定し、生徒に対し有効な働きかけを積極的に行う。		①校内ランキングの見直しを丁寧に行うとともに、事前検討会を充実させ、収集した情報を、チューター制度を活用し生徒の進路希望の実現と教職員の研修に生かしていく。 ②個別大学模試の分析や追跡調査、業者の分析報告会の情報を共有しそれをもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。 ②クラス担任からの入試制度等の進路情報の伝達や、進路学習室・大掲示板の活用や各クラス進路委員の活動を通しての恒常的な情報発信など、情報提供環境を充実させる。 ②低学年からの進路情報提供の一環として「大学入試問題研究」を充実させ分析結果を校内実力テスト・校内模試の作問につなげることで、上位層の指導に活かす。 ③「高大接続改革」に関して全職員で情報を共有し、各学年の取組に対し、学校全体での支援が行えるようにする。	
⑥評価 *栃高評価満足度 %は1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し、()は 5 わからないの割合を表す < >・・・昨年度データ	①栃高評価②(土曜講座の充実)では、生徒 76(5)<88(5)>で大きく割合が低下し、保護者は 76(17)<73(21)>と前年比で高くなった。学力向上のために、土曜講座の実施形態(全員講座と希望講座、層別指導の組み合わせ等)を工夫し、実態とニーズに合わせて計画・実施し、充実したものにするとともに、その内容について引き続き外部へも発信していく。 ②栃高評価④(3年間を見通した進路指導)では、生徒 87(4)<91(3)>と肯定的評価の割合が低下。各学年とも LHR 以外の場面でも進路意識・学習意欲の向上が望まれる。 ③県の学力向上事業も活用しながら、学年による定期的な分析や改善策を通して、3年間を見通す機会を持つことができた。		①進路指導委員会では個々の生徒に応じた「ぶれさせない」指導や助言をさらに充実させる必要がある。2年次10月の進路検討会は上位者指導等、早い時期からの指導をより強固なものにした。 ②栃高評価⑥(進路に関する情報提供)では、生徒 86(3)<93(1)>、保護者 88(5)<86(6)>と、例年安定しているが、昨年比で生徒の割合が大きく低下した。 ②主体的に進路選択ができるよう指導体制を整え、きめ細かい個人指導を行うための具体策として、「大学入試問題研究」の内容を充実させることができた。 ③高大接続改革については最新情報、特に令和7年度の入試情報収集に努めた。	
⑦学校関係者評価	- 進路指導に対する評価、生徒の進路意識は高く、この点と生徒が自ら学習に向かう姿勢とのマッチングが図られるとよい。 - 土曜講座の内容と目的の保護者への周知がまだ足りないのではないか。		- 大学進学を目指す本校生にとって重要な支援の一つである進路情報の提供に関して評価が高いのは素晴らしい。 - 生徒個別の進路指導の実態が見えるようになると良い。	
⑧次年度への課題	- 土曜講座の実施形態(全員講座と希望講座、層別指導の組合せ等)を、実態とニーズに合わせ、実施した内容を外部へ発信する。 - 本校独自の進路指導力の伝承とその強化。		- 生徒の実態とニーズに合わせた面談と時機を捉えた面談のさらなる充実。 - 大学入試改革への対応の継続と強化。	

①重点目標	d 主体的な学習活動による健全な教養の醸成【図書館】	e 健康的な生活のための生活習慣の確立【保健厚生】
②重点課題	5 図書館利用の質的な向上をめざした支援体制の整備	6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成
③現状	・平成26年度には年間貸出数5,000冊越えの記録を達成したが、その後読書量から質の向上へと重点をシフトし、令和2年度は約900冊、令和3年度は約1,500冊であった。 ・生徒の図書委員会を中心に、推薦図書の案内、読書会の開催、ビブリオバトル全国大会出場など、読書推進活動は比較的盛ん。 ・情報センターとしての新たな使命をふまえ、論文検索用端末が新規導入された。また運用システムの更新も進行中である。	・新型コロナウイルスの拡大防止対策を実施しながら体力の低下を防ぐとともに、心の健康を維持する。 ・感染症の拡大防止や健康的な生活習慣に関する様々な情報について、生徒が正しく理解できていないことがあり、インターネット等からの情報により意思決定・行動選択している場合もある。
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①思考力や教養を高める目的で、授業や図書委員会等を活用した読書推進活動のさらなる活性化。発. 協. 考	①体育の授業以外の場面において、週1日以上以上の運動を実施し、自らの健康状態・健康課題を理解できる生徒数を90%以上とする。展
	②年間貸出数2,000冊以上。基. 課. 自	②「保健だより」やリーフレット等の配布・掲示により新型コロナウイルス感染症予防に関する情報を発信し、感染防止対策を徹底する。基
	③GIGAスクール構想によるICT教育の推進に資する、情報センターとしての支援体制の充実。情. 展. 課	③熱中症や光化学スモッグ等に関する知識を正しく身に付けさせ、症状や健康被害、対策方法を理解させるとともに、生活習慣の重要性を伝達する。課
⑤具体的な取り組み	①図書委員を中心に、県「高校生読書コンシェルジュ」事業とも連携し、一層多角的に図書館利用へと生徒を誘う。 ②教科指導との連携を図り、印刷物、ホームページ、イベント、展示の工夫等を組み合わせ、利用者の読書の質を維持しつつ、図書館利用者数の向上を図る。 ③公立高校図書館としての旧来の発想にとらわれず、生徒の探究活動を真に支援し得る体制を、自由で柔軟な発想で整備する。	①正しい運動法や個に応じた運動について、自身の健康状態・健康課題を考える授業を実践する。部活動や体育的行事等などでも運動の効果を実感させ、運動の習慣化の大切さを理解させる。 ②感染症拡大防止や熱中症などの身近な健康課題について、授業や「保健だより」やリーフレット等で効果的な情報を提供する。生徒会や保健委員会が中心となり、生徒が主体となって啓発活動を実施し、感染防止対策を徹底する。 ③県教育委員会学校安全課から通達される、熱中症、光化学スモッグ等の注意事項を、保健体育の授業にて適切に伝え、生徒が自ら健康意識を向上できるよう指導する。保健委員による周知活動にも、積極的に取り組む。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、()は 5 わから ないの割合を表す < >...昨年度データ	①図書委員と高校生読書コンシェルジュが核となり、活発な活動を展開した。 ②連携、広告、展示の工夫等を組み合わせ、図書貸出数1146冊(2月末まで)。前年度同月比25%増、一昨年度同月比30%増。 ③高校図書館としては画期的な論文検索システムが無事軌道に乗り、利用方法の紹介・周知・督促の効果もみられ、生徒の研究活動に活用されている様子が顕著に観察できた。栃高評価⑦(自ら学ぶための支援)生徒87(3)<92(2)>▲保護者89(6)<89(6)>と高水準を維持。	①体育的・学校行事に対応した運動を実施する様子はいかがえたが、体育の授業以外の場面で、週1日以上以上の運動を実施し、自らの健康状態や課題を理解できた生徒は、70%程度であった。 ②「保健だより」やリーフレット等は、内容、頻度とも充実していた。目標の感染防止対策とは異なるが、献血セミナーを開講し、生徒にとって重要な知識の伝達の機会を設けることができた。 ③栃高評価⑧(生徒が健康的な生活を送るための指導)生徒75(3)<81(7)>、保護者86(6)<85(6)>生徒が興味関心を抱くような、適切な健康指導を実施する必要がある。
⑦学校関係者 評価	・総数による目標設定もよいが、個人の貸し出し数や、よく借りている生徒数に着目するのもよい。	・心身の健康維持という意味で特別活動は大切であり、高い部活動加入率の維持に努めてもらいたい。 ・コロナ禍における具体的な取り組みがなされていて素晴らしい。
⑧次年度への 課題	・新システムの導入に伴い、図書管理や検索機能等がすべてオンラインで管理されることになったが、図書館内でオンラインになっている端末は論文検索システムの一台のみである。生徒各自のGIGAタブから図書の検索ができるように情報教育係と連携して対策を講じたい。	・保健厚生部、保健委員会、生徒会コロナ対策部等との連携を密にし、生徒主体の諸活動を継続させる必要がある。

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導		【特活】	
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施		8 学校行事、部活動、体験活動に全力的に取り組むための環境整備	
③現状	・生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり、全員参加による学校祭を企画している。 ・3年前までは3,000名超の来場者数を維持できた。地域や保護者から一定の評価を得ている結果であると推察できる。この2年間は、コロナ禍の対応で、校内のみの実施となった。 ・準備段階において、物品の使用に関する指導が必要である ・感染症対策を徹底した上で、更なる質の向上を目指す取り組みが必要である。		・部活動加入率がやや下がったが、移動教室、外国人との交歓会、ボストン海外研修、県庁堀清掃ボランティア、生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。県庁堀清掃では、栃木市役所との協力関係を構築し、実施体制が確立されている。 ・文武両道を掲げ多くの生徒が学校生活を送っているが、進路実現のための学習時間の確保と、部活動や生徒会活動等の様々な活動を両立していく難しさもある。 ・ボストン海外研修は、実施できなかった。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①クラス企画における質の向上に向けた実行委員会と文化委員及び関係職員との連携を強化する。【考】 <u>協</u> 【課】	A	①年間を通して部活動加入率80%を達成する。 <u>展</u> ・ <u>自</u> ・ <u>課</u>	B
	②感染症対策を講じた上での一般公開を目標とし、生徒と共に様々な工夫を講じ、臨機に対応する。 <u>課</u> ・ <u>展</u> ・ <u>発</u>	A	②移動教室、ボストン海外研修やリーダー研修等の行事において、リーダーシップ・フォロワーシップの育成を図れるように、指導内容の質的向上を目指す。 <u>自</u> ・ <u>協</u> ・ <u>情</u>	A
⑤具体的な取り組み	①実行委員会を定例化し、生徒会係職員を中心として、職員と実行委員、文化委員の連携を強化する。 ①クラス企画が準備段階から計画的に取り組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに、文化委員と担任との関わりを充実させる。 ②県内外の他校の様子や各種イベントでの感染症対策の情報を収集し、実行委員会の生徒と共有する。 ②実行委員会内審局の生徒との情報共有を丁寧にし、クラス企画の進捗状況の把握と指導助言をすることで、質の向上を目指す。また、物品の使用に関する規則を徹底する。		①特別活動全般において、その意義を各クラスにおいて指導し、事前指導・研修の機会を設け、参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして活動に臨めるようにする。 ①年度初めの部活動加入率の調査と、中間及び年度末の時点での退部状況の調査を実施するとともに退部者の実態把握に努める。 ①部活動と学業の両立支援の通知を配付し、生徒や保護者に周知するとともに、部活動優先日(金曜日)を徹底する。 ②移動教室やリーダー研修では、生徒主体での行動が出来るように事前の準備を丁寧に言い、内容の充実を図る。	
⑥評価 *栃高評価満足度％は1 と思う+2 大体 と思う の割合を表し、()は 5 わからないの割合を表す < >・・・昨年度データ	①担当職員の指導により職員、実行委員、文化委員の連携がうまくいって、計画的に準備ができた。 ②栃高評価⑩(学校祭の充実)生徒 93(2)<93(2)>保護者 93(5)<77(19)>他校の学校祭を調査し、外部公開していた高校の内容を取り入れて、コロナ禍以前の来場者約3千人を半数に、午前午後の総入れ替えなどの制限を設けることで、限定的ではあるが一般公開ができた。クラス企画のレベルも高く物品の管理もきちんとできた。		①部活動加入率は、4月が81.8%、12月では79.1%であり、昨年に続き、80%以上を維持することはできなかった。 ②ボストン研修が実施でき、参加生徒は非常に貴重な経験ができた。リーダー研修会では、リーダーの自覚を持たせ、生徒主体での行動ができ、内容も充実していた。 ②移動教室(スキースノボ教室)は、感染症対策をしっかりと行うことで実施できた。宿泊を伴う集団行動での役割分担の中で、リーダー、フォロワーとしての自覚ある行動ができた。	
⑦学校関係者評価	・新型コロナの影響により学校祭運営に支障が出ている中、学校として努力されている様子がうかがえる。 ・栃高祭を一般公開できたことは生徒の経験としての価値に留まらず、地域とのつながりという点でも評価できる。		・行事の項目として伝統行事である「耐久レース」を加えてはどうか。 ・適切な感染対策のもと各種行事を実施できていることは素晴らしい。	
⑧次年度への課題	・次年度以降は、制限の内容を少しでも緩やかにした一般公開ができるような準備体制を整える必要がある。 ・午前午後の総入れ替えは、生徒の昼食時間を確保することもでき、結果的に良い取り組みであり、継続させた内容を計画する。 ・来場者の満足度を高める企画の工夫を早い時期から行う。		・部活動に関して、加入率を回復するための方策を検討する必要がある。 ・栃高耐久レースはPTA等から多大な協力をいただき、行われている特色ある行事であり、栃高耐久レースに関する評価も学校評価で行う必要がある。	

①重点目標	g 規範意識と社会性の向上			【生徒指導】	
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上			10 校内生活における規範意識の向上と望ましい人間関係の構築	
③現状	・各教科やHR・学校行事等において、生徒たちが安全な交通社会の主体となる指導を実践している。 ・学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成や品位ある言動につながることを理解させる生徒指導を実践している。			・生徒一人ひとりに自己肯定感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め、豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。 ・規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員共通理解に基づき、その時、その場での指導を実践している。	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成 C：達成できなかった。	①交通事故発生ゼロを目指す。基	B	①いじめ解消 100%を目指し、早期に発見し、組織的に対応・解決する。展	A	
	②登下校時の苦情がなくなることを目指す。協	B	②スマートフォン等の規程違反生徒数昨年比 80%を目指す。考	C	
	③遅刻生徒数昨年比 80%を目指す。自	B	③教育相談など支援が必要な生徒の早期発見と早期対応に努める。情	A	
⑤具体的な取り組み	①交通事故の防止については、生徒たちが、被害者及び加害者にもならないことを目指し、登下校指導や交通安全講話、HRでの注意喚起など、教育活動全体を通してルールの遵守を指導する。 ②教職員、生徒会交通委員やPTAが街頭指導等を含む交通指導を行い、他の模範となるような行動を目指すさせる。 ③時間的な余裕が持てるような生活習慣の見直しについて、登下校のみならず、学校生活全般を通じ時間的余裕を持ち行動するよう指導する。また、家庭と連携して指導するとともに、随時立哨指導を実施する。			①生徒同士がお互いの特性を認め合い好ましい人間関係を構築し、いじめが起こりにくい集団づくりの指導をする。 ②携帯電話等使用規定をはじめとする校内規定の遵守については、内面的な自覚を促し、自主的にマナーの向上に努めるよう努力する。 ③定期的に学年主任、各部長間で不適応傾向の生徒について情報交換を行い、職員間での情報共有と迅速な対応に努めケース会議を迅速に開く。また、必要に応じてカウンセリングを有効に活用する。また、「生活アンケート」や「QUテスト」の実施とその結果の効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握に努める。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、 ()は 5 わからない の割合を表す < >…昨年度データ	①交通事故発生件数 7 件(昨年度比+ 5 件) 昨年同様登校中の事故である。1 件重大事故があった。幸いにも死亡事故にならなかったが、非常に危険な事故であった。今後は自転車乗車中のヘルメット着用を推進し、保健の授業や交通安全講話、ホームルームでの注意喚起など、教育活動全体を通して更に指導した。 栃高評価⑫(交通ルールの遵守やマナーの向上) 生徒 80(4)<80(5)>保護者 81(13)<77(16)> ②交通関係のマナーの苦情 2 件(昨年度比+ 1 件)職員、生徒による街頭指導を予定通り実施(4 回)した。また PTA 合同の通学路指導を実施(2 回)した。 ③朝の立哨指導や SHR での指導をすることができた。			①いじめ認知件数 6 件(昨年度比+ 5 件) 「生活アンケート」から 6 件確認されたが、担任・学年主任・教育相談係・養護教諭の連携により早期に解決した。 ②栃高評価⑬(生徒の規範意識を高めるための指導) 生徒 82(4)<84(3)>保護者 88(9)<85(9)> 栃高評価⑭(携帯電話等のルール遵守と情報モラルの向上) 生徒 75(6)<82(3)>保護者 88(6)<86(7)> 携帯電話等規定違反 24 名指導(昨年度比+18 件) 電源の切り忘れ等軽微な違反が増加した。 ③栃高評価⑨(悩み等の相談体制の整備) 生徒 75(7)<81(7)> 保護者 81(13)<77(16)> 「生活アンケート」や「QU テスト」を実施し、その検討会も実施した。また、主任会議等を利用し、各学年間との連携もしながら、その都度、ケース会議を実施した。その結果、効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握を早期に把握できた。	
⑦学校関係者 評価	・交通マナーの向上と 5 分前行動を次年度も継続指導事項としていただきたい。 ・交通事故発生件数が増加しており、引き続き対策に取り組んでいただきたい。			・携帯利用や情報モラルの向上への指導において、生徒の評価が低いのが気になる。授業等における ICT 機器の利用機会が増えている中、それらの利用への指導を行っていくのは大変なことであるが、地道な努力を願う。	
⑧次年度への 課題	・基本的生活習慣の確立を促すべく、生徒が自らの行動を考える機会を設定し、学校内にて 5 分前行動を徹底させる。			・規範意識の向上のために生徒が主体的に考え、行動できるよう授業・学校行事・学校生活を通じ指導を徹底していく。	

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み【保健厚生】		i 広報活動の充実【渉外】【教務】
②重点課題	11 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善		12 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開
③現状	・教室内の清掃や教室周辺(特にロッカー上)、昇降口の靴箱の上、トイレ等の清掃が時期や清掃担当クラスによっては不十分な場合がある。 ・可燃ゴミと不燃ゴミとの分別回収は概ね良好だが、クラスによって故紙紙回収の意識に差が生じている。また、粗大ゴミや不要な物が一部放置されている。		・PTA だよりを年2回発行 ・PTA 評議員会を年4回開催 ・PTA クラス懇談会、PTA 支部会、学年研修会において進路、学習、生徒指導等の取組や現状についての情報提供 ・学校案内をはじめとする各リーフレットも充実した ・対面での広報機会は激減し、HP のさらなる充実が望まれる
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①校内の清掃活動を徹底するとともに、校内美化への意識の高揚を図る。【目】	B	①PTA だよりの内容の充実を図るとともに PTA 関連行事の開催方法を見直す。B
	②校内の消毒や換気等を徹底し、環境衛生の意識向上に努める。【協】	B	②本校主催の中学校訪問における訪問校数 20 校を目指す。C
	③ゴミの分別を推進し、故紙の回収量については、月平均 1,200kg 以上とする。また、不要な粗大ゴミを撤去する。【考】	B	③HP をより見やすいものとするために検討の機会を設け見直しを促進する。A
⑤具体的な取り組み	①環境美化委員を中心に、定期テスト後に教室周辺の学習環境をチェックし、清掃が不十分な箇所は、改善するよう呼びかける。 ②保健厚生部を中心に、校内の消毒や換気方法を検討し、生徒が自主的に行動できるよう指導する。 ③ゴミ分別と故紙回収を推進するため、分別等の表示や掲示を工夫するとともに、故紙回収箱の設置について年間を通じて各教室に義務づける。また、粗大ゴミは事務室・公仕と連携して撤去する。		①PTA だよりに校内の様子をより多く掲載できるよう検討する。 ①感染症対策に十分配慮した PTA 行事を企画・運営を行う。 ②案内文書に3年担任向けのリーフレットを添付するなどし、中学校職員への周知を図る。 ③HP 内の「Web 一日体験学習」を充実させる。 ③係打ち合わせを定期的に実施する。
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体そう思う の割合を表し、() は 5 わからないの割合を表す < > …昨年度データ	①栃高評価⑮(環境美化、ゴミ減量化、リサイクル運動の推進) 生徒 67(7)<71(6)>保護者 73(21)<68(22)>生徒による評価が前年度から約4ポイント減少し、1+2の割合が60%台となった。環境美化への適切な指導改善が必要である。 ②消毒液の設置、呼びかけ等は十分であったものの、特に冬場の換気の徹底に課題が残った。 ③ゴミの分別は、概ね良好であった。また、公仕と相談し、不要な粗大ごみを撤去している様子が見えた。一方で、古紙の回収量は月平均約1000kg前後であり、目標値には届かなかった。		・栃高評価⑰(家庭や地域社会への情報発信) 生徒 81(7)<88(3)>、保護者 90(4)<88(3)> ①PTA だよりの発行をはじめ、生徒を通して保護者への情報発信や連絡に努めた。 ②中学校職員への周知は例年と同等にとどまり、訪問件数は3件であった。 ③HP 内 Web 一日体験学習の内容のうち、他のページと重複する部分はリンクを貼るなどして、訪問者が知りたい情報を HP 内でスムーズに閲覧できるよう工夫した。 ③定期的に打ち合わせを行い、更新状況の確認、見直し箇所の確認をした結果、アクセス数の増加が見られた。
⑦学校関係者評価	・栃高評価⑮について生徒・保護者ともに特に低いため、改善の余地がある。家庭と連携し、SDGs への取り組みとも併せて意識向上に努める必要がある。		・中学校訪問校数が3件と少ないのが気になる。相手があることなので難しいと思うが、鋭意努力して行ってほしい。 ・HP をはじめ、対外的な情報発信は成果をあげている様子が見られる。
⑧次年度への課題	・適切な清掃分担区割り振り、全員清掃の意識改善が必要である。 ・生徒会コロナ対策部と保健委員、環境美化委員が連携しての換気の呼びかけ、徹底が必要である。		・中学校訪問校数の大幅減は、1 日体験学習を3年ぶりに開催できたことが関係していると仮定すると、中学校訪問のあり方を見直す必要がある。 ・職員の業務負担を最小限にしつつ HP 更新頻度を上げていく必要がある。

①重点目標	ⅱ 国際社会で活躍できる有為な人材の育成 【SSH】	
②重点課題	13 課題研究指導方法の確立	
③現状	・「一人一研究」や「ゼミ活動」が定着し、科学的手法を身につける取組として態勢ができてきた。 ・探究のプロセスに則った課題研究の実施が、研究内容の深化に寄与するという認識を持ち、毎年生徒が入れ替わる中でも研究の質を確保し、より高めていくための指導法の改善、継承や発展が課題である。	
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	①課題研究のテーマ設定からまとめ・発表までを通じて、生徒が主体的に取り組むようにするための指導を充実させる。 課. 情. 自	A
	②課題研究を通じた探究プロセス習得の質的向上を図り、学会・コンテスト等への参加件数を増やす。 発. 協. 考	B
	③課題研究に関わる指導法や教材を整理し、外部に向けて取組の成果を発信する。 基. 展	B
⑤具体的な取り組み	①1年生で新たに課題研究ケーススタディを実施し、グループ活動を通じた探究スキルの習得を図る。 ①探究のプロセスに則った課題研究にするために、アドバイスの観点やゼミで用いるループリックを改訂し、共通認識に基づく指導を行う。 ②計画書の複数回の見直し、議論や口頭発表の演習時間を担保した年間計画を作成し、研究の質的向上を促す。 ②外部での発表等を意識したポスター作成やプレゼンテーション技法の講座を充実させる。 ③「課題研究基礎技能講座」や「授業研究会」を県内外の教員に向けて広く公開し、そこでの協議を通じて指導方法の改善・見直しを図る。	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1 そう思う+2 大体 そう思う の割合を表 し、()は 5 わから ないの割合表す < >…昨年度データ	①1年生での課題研究ケーススタディは生徒の熱心な取り組みを喚起し、グループでの議論や複数回の発表の機会を通して探究のプロセスを学ぶプログラムを構築した。 ②検討事項を明確にした議論の進行や動画教材の活用など課題研究の指導法を改善できた。 ②外部での発表等参加はSSHクラブ8件、個人研究1件であった。 ③課題研究基礎技能講座参加者18名(昨年度28名)、オンライン授業研究会参加者計49名(昨年度68名)であり、昨年度比で参加者数は減ったものの有意義な協議を行うことはできた。	
⑦学校関係者評価	・成果発表会に参加し、一部の生徒だけでなく、多くの生徒が意欲的に関わっている姿を見て頼もしく感じた。 ・発表会について講堂での発表者の配置など、より発表しやすく、聞きやすい会場設定など検討、改善をしながら実施してほしい。	
⑧次年度への課題	・課題研究への主体的な取組に向けて、生徒への効果を分析し、指導計画や指導内容の改善を継続する。 ・外部発表等へのさらなる参加を促進する方策を検討していく。 ・公開講座や研究会、研究成果発表会の意義、実施の方針等を見直し、さらに有意義な取組となるように改善を図る。	